

上尾市立富士見小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

未来を切り拓く 心豊かな児童の育成
かしこく やさしく 元気よく

学校課題研究主題

「未来を切り拓く児童の育成」一絆とつながりを大切にした指導を通して-

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R6 上尾市立小・中学校学力調査
- 国語、算数、理科の全てで、県および全国の平均正答率を上回っている。 - 国語では、全ての学習指導要領の内容区分で全国平均を上回っており特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」で高い正答率である。 - 算数では、特に「A数と計算」の領域が、他の領域と比べて平均正答率が高い。 - 理科では、「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」で高い正答率だった。一方、「エネルギーを柱とする領域」では、全国平均を下回った。	- 国語は、4年生で平均よりやや上位、5年生と6年生では高い水準で安定していた。さらに、6年生で+0.49と大きく伸びていた。 - 算数は、4年生では国語の「5-A」と比較して課題が見られた。しかし、5年生では改善し、さらに6年生ではレベルを維持しつつ、昨年度からの変化量(伸び)が国語と同等の大きな伸びを示していた。 - 全体として「作業方略」にやや課題が見られた。	- 国語、算数共に全学年の正答率が全国平均を上回っている。 - 正答率は観点「知識・技能」は両教科共に目標値を上回っている。 - 領域では、国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数は「データの活用」が高い。一方で国語「書くこと」で目標値を下回る学年もある。 - 基礎基本の学習の確実な定着が課題である。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気づきを生み出しながら新たな気づきを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲(友達・教師等)と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
- 各種学力調査の結果から得られた課題を基に指導の重点を明確にする。 - 単元の指導を一時的なものにせず、計画的に繰り返し取り組ませる。 - 協働活動や学び合いの場を意図的に設け、ICT機器を活用し、多くの考えに触れさせる。	- 児童の問題意識を高める課題設定を行うとともに、多様な課題解決のできる授業展開を行う。 - 試行錯誤し、独自に工夫したことを表現させる場を設けるとともに、考え方の多様性を褒め称える指導を行う。	- 学びを個々で完結させず、学びの成果や作品等を他者に表現することを学習のゴールに設定する。 - 個の活動、グループ活動、一斉授業等を計画的に位置付け、目的意識をもたせた体験活動や学び合いを行わせる。

本校の特色ある取組

- 教科専科制による学習指導(5・6学年、7教科)、学年内交換授業(1～4年、学活・道徳)
- 読書タイム、環境学習、あいさつ運動等、多様な学びの推進

家庭教育との連携

- さくら連絡網を活用したオンラインでの手紙配布やアンケートの実施、出欠席の連絡、学校応援団の募集や日程調整
- 学校ホームページを活用した情報発信